

洲本市五色町都志米山の農業集落の将来性について



『ローカル・ジャーナリズム論』の授業で、50人の学生が米山地区で玉ねぎ掘りを実施

参加学生の声

「体験させてもらうことで農業の楽しさについて知ることができる。まずは積極的に若者が農業や淡路島について調べていくべきだと思った」

「農業体験会やパーベキューのようなイベントを開いたりすることで少しでも多くの人に興味を持ってもらえるよう工夫していくことで地域活性化に役立つと考える」

「ソーラシェアリングが現在の淡路島が直面している人口減少問題解決のための切り口になることを実感した」

「農業の楽しさについて多くの人に広めていくことで興味を持ってもらうことが淡路島の地域活性化に繋がると私は考えます」

◎アグリツーリズムの可能性

◎ソーラシェアリング農業による環境対策学習効果

◎大都市圏から週末ボランティアで農業従事者を増やす

課題は3点

- ①大都市圏の若者に魅力をアピールできていない
- ②リーズナブルな長期滞在施設を拡充する必要性
- ③アクセス手段の悪さ補う工夫と新たな人材活用

大都市圏の大学生は淡路島にとっての宝庫

レトロこみちでのボランティア活動

- ・第18回城下町洲本「レトロなまち歩き」(2022.5)に運営スタッフとして、学生と教員が参加
- ・第19回城下町洲本「レトロなまち歩き」(2022.10)に運営スタッフとして、学生と教員が参加
- ・第20回城下町洲本「レトロなまち歩き」(2023.4)に運営スタッフとして、学生が参加
- ・洲本ガイド育成講座「歴史」(2022年度)に、学生が参加
- ・洲本ガイド育成講座「竹林」(2022年度)に、学生が参加



学生らが、海と山が近い自然の豊かさや「昭和レトロ」な街並みに感動し、洲本市の魅力に充分に引きつけられた



学生は最大でも4年間であるため、上級生から下級生へのスムーズな引き継ぎが望まれる



大和大学社会学部

得能弘一(教授)
佐々木正明(教授)
永井琉太(3回生)
中川康志郎(同)

大和大学社会学部長ご挨拶

はじめまして。私は大和大学社会学部学部長の西田と申します。このたびは、貴市の域学連携事業が10周年を迎えられることに、心よりお祝いを申し上げます。さて、私も大和大学社会学部は、2021年4月の開設以来、今年で3年目を迎えます。この革創期に、洲本市職員の方々をはじめ地域住民・団体の皆様には、本学の教員ならびに学生に活動の場をご提供下さいましたことに、あらためてお礼を申し上げます。これまで、貴市主催の「レトロなまち歩き」に本学の学生が参加させていただく中で、また、フードロス問題をテーマにした「ラーメンユニット」(本学学生団体、呼称は「麺の下の力持ち」)に規格外の農作物をご提供いただく中で、参加学生たちは大きな成果を収めた聞いております。一方、整備されず放置された竹林が存在する現状から、そこにある課題とその解決策を模索する取り組みにも参画したと伺っております。農業生産や竹林整備には、いずれも人手、後継者の確保が課題の一つに挙げられますが、それは学生の活動にも言えることです。現下の取り組みが今後、学生に引き継がれていくことを願っております。

大和大学社会学部長 西田宗作

ラーメンで繋げる、地域コミュニティと持続可能な社会

2022年4月より大和大学社会学部にSDG研究推進室が設立された。同室は教員と学生が中心となって、持続可能な社会へ向けたの取り組みを研究と実装の二つを実施する目的である。ラーメンユニット「麺の下の力持ち」では、これまでにラーメンを通じて、食品ロス削減の取り組みや竹林整備など多くの活動を洲本市と実施してきた。

-兵庫県洲本市での活動記録-

2022.05 『SAKANA&JAPAN FESTIVAL2022』(吹田市・大阪万博記念公園) 出店

2022.07 『七夕祭』(大和大学)にてラーメンの提供

2022.09 『すいたフェスタ』(吹田市・大阪万博記念公園) 出店

2022.10 『秋のふれあい青空市』(洲本市) 出店

2022.11 『ハルカス学園祭』(大阪市・近鉄あべの百貨店) 出店

2023.03 『SAKANA&JAPAN FESTIVAL2023』(吹田市・大阪万博記念公園) 出店

2023.04 兵庫県洲本市で竹林整備を実施

『第20回城下町レトロな洲本街歩き』(洲本市) 出店

2023.07 兵庫県洲本市で竹林整備を実施

『七夕祭』(大和大学)にて兵庫県洲本市と取り組む域学連携の成果報告

2023.09 『すいたフェスタ2023』(吹田市・大阪万博記念公園) 出店

『日本計画行政学会第46回全国大会』にて洲本市との域学連携事業を研究報告

一洲本市の竹林プロジェクトを事例に一



『域学連携における社会関係資本の構築に関する研究』

淡路島の竹林整備プロジェクトを事例とする「社会関係資本」の研究を9月に「日本計画行政学会第46回全国大会」にて発表しました。

社会関係資本(Social Capital)とはなにか？

●社会関係資本とは？

信頼・規範・ネットワークといった人と人の関係に着目した概念。

●社会関係資本がもたらすもの

政治参加や市民参加、ボランティアなどの向上(Putnam2000)

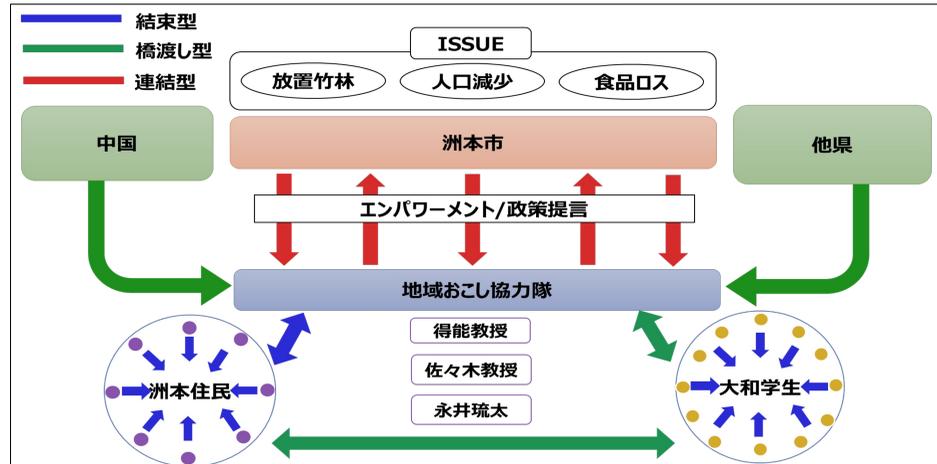
●社会関係資本の種類

結束型 : 似た者同士の関係 例) 友人、商店会、消防団

橋渡し型 : 異なるタイプの間関係 例) 友人の友人、

連結型 : 階層を超えた関係 例) NPO、産学連携、補助金

洲本市と学生の社会関係資本モデル



大和大学生やプロジェクトの主催者、自治体担当者の方々へのインタビュー・観察調査をもとに社会関係資本のモデルを検討。地域おこし協力隊や大学の重要人物が「橋渡し」を担い、行政と市民のオープンなネットワークモデルを築いて、課題解決の契機になると考察しました。

<p>小林さん、葛さん(千草竹林地区) × 麺の下の力持ち</p> <p>少子高齢化より担い手が不足している竹林整備を学生が実施</p> <p>学生と地域おこし協力隊が竹林の有効活用を考え企画中</p>	<p>淡路島ソーラーファーム(米山地区) × 麺の下の力持ち</p> <p>傷や規格外サイズの玉ねぎや人参、キャベツなどの野菜→商品にならない為捨てられてしまう</p> <p>ラーメンのスープやトッピングで使用</p>
---	---

活動を通じて、多くの方々との繋がりを得ることができた。米山地区の淡路島ソーラーファームとは昨年4月より現在に至るまでフードロス削減への取り組みを実施しているが、ラーメンイベントだけではなく、プライベートで島内へ訪れたときにも交流させて頂く関係性となった。また本学とSDGs協定も締結し、今後も活動を円滑に進めるよう協力を要請した。他にも参加した竹林講座をきっかけに地域おこし協力隊の方々へ出会い、プロジェクトとして、学生が竹林整備を実施するなど多くの繋がりを生むことができた。このように本当の意味での持続可能な社会への取り組みができたと思う。